

令和4年5月2日

愛する人を幸せに

南九州市立浮辺小学校
校長 石川 雅実

コロナ禍、ウクライナ情勢等、先行き不透明な現状が続いています。しかし、夢や希望を持って生活していきたいものです。また、他者への温かい思いやりを大切にし、差別や偏見をなくていきたいものです。

スタンダードは、「愛情には一つの法則しかない。それは、愛する人を幸せにすることである。」と説きました。とてもシンプルですが、含蓄のある言葉です。同時に難しい課題でもあります。それでも、今こそ愛する人を幸せにするときです。まずは身の回りの愛する人を幸せにしましょう。どうすることが幸せに繋がるかをよく考え、実行していきましょう。

学校における愛する人とは、一人一人の子供たちです。子供たちに深く寄り添いながら、幸せの実現を図っていきたいものです。常に子供ファースト、子供が主語になる教育活動を教職員と共に展開していきたいと思えます。

登校指導時、元気で笑顔満開の子供たちの様子を眺めながら、ふとそんなことを考えました。



令和4年5月9日

毎日を感謝の日に

南九州市立浮辺小学校
校長 石川 雅実

昨日は母の日でした。勤務地の特産品である新茶と定番のカーネーションを携えて、実家に帰りました。残念ながら今年もコロナ禍の厳しい状況なので、対面を避け、マスク着用で数分間の滞在となりました。特に何を語るわけでもないのですが、ただ「今日は母の日だね。いつもありがとう。」と、自分でも驚くほど素直に感謝の言葉を口にすることができました。母も「ああそうか。今日は母の日なのね。わざわざありがとう。」と、はにかみながらも涙声の返事が戻ってきました。短い時間での短い会話ではありましたが、なんとなく心穏やかな気持ちになれました。

日頃、感謝の気持ちを抱いていても「ありがとう」のたった五文字の言葉がなかなか言えないのは、私だけではないはずです。感謝の言葉は生ものに例えられます。早く言わないと鮮度が落ちてしまいます。その都度、タイミングを逃すことなく言えるようになりたい、毎日を感謝の日にしないといけないと、反省する母の日でもありました。



令和4年5月11日

地域との絆深める芋畑

南九州市立浮辺小学校
校長 石川 雅実

芋植え体験活動を学校農園で行いました。この活動は、地域学校協働活動の一環で、コーディネーターである地区公民館長さんをはじめ、学校評議員の方々といった関係者の御協力のもと、全校児童11名と職員で取り組みました。

短時間で作業も終わり、楽しく取り組みました。これは関係者の皆様方の事前準備の御苦労があったからこそです。畑の耕し、マルチ張り、サツマイモの苗、苗を挿す竹棒の準備等、大変お世話になりました。また、サツマイモの品種の説明や植え方のこつも丁寧に御指導いただきました。私も知らないことばかりで参考になりました。

地域の方々の学校や子どもたちを想う気持ちに感動するとともに、感謝の念が更に強く、深くなりました。また、閉校に向けての協力・強力的な絆も肌で感じる事ができました。本校の地域学校協働活動は今後も多く計画されています。次回の活動も子どもたちの成長に必ずつながるものと、本日の活動で確信しました。



令和4年5月16日

不審者対策も台風同様備えが必要

南九州市立浮辺小学校
校長 石川 雅実

南九州警察署，地区防犯協会の方々をお招きし，不審者対応訓練を実施しました。毎年実施している訓練ではありますが，子供たちや職員にとって，日頃の危機管理や避難行動等について，改めて深く考えるよい機会となりました。

台風対策は天気予報等で事前に対応可能ですが，不審者の侵入は予測不可能な事態です。常日頃から対応マニュアルの確認や改善，共通理解と共通実践，連絡体制の手順や関係機関との連携の在り方等について，再確認する必要性を感じました。

万が一に備え，登下校中や休日における対応等についても，訓練で学んだことを実生活に生かしてほしいと思います。各御家庭でも避難行動の「いかのおすし」の実践について，再度確認されてください。特に大声を出して逃げることを最優先させてください。

不審者の見極めはとて難しいことです。しかし，日頃から誰に対しても気持ちのよい挨拶を実践することは，防犯上も必要なことなのかもしれません。

令和4年5月17日

関心と感心を持って生きる

南九州市立浮辺小学校
校長 石川 雅実

関心と感心という漢字は同音異義語です。この二つの言葉の持つ意味について考えてみました。関心とはそのことについて興味を持ち，また，そのことをより深く知ろうとする気持ちを持つことです。感心とは困難なことを克服した自他の行為に，驚きの気持ちで見つめたり，すごいと感じたりすることです。

子供たち一人一人，そして，私たち大人は，どのようなことに関心を持ち，それをどのようにやり遂げることができるのでしょうか。また，どのようなことに感心するのでしょうか。感心したことに対して，どれだけの賞賛の言葉を贈ることができるのでしょうか。今までの行為について深く振り返り，しっかりと反省したいと思います。また，成果と課題を今後に生かしていきたいものです。

コロナ禍，ウクライナ情勢の深刻化の中でも日々の生活は続きます。より善く生きるということにもっと関心と感心を持って，前向きに生きていきたいと思います。明るい未来を信じて。

令和4年5月23日

不思議な御縁に感動

南九州市立浮辺小学校
校長 石川 雅実

長男が北薩地区で新任教員として4年目を迎え、本年度は6年担任をしています。その保護者の中に私の初任地での教え子がいることが分かりました。妻も私と同校で養護教諭をしていた関係で、初任校の小学校で再会することになりました。

母親として子育てに奮闘している教え子は、昔の面影が残っており、三十数年ぶりの嬉しい再会となりました。コロナ禍ということで立ち話の短い時間での再会でしたが、元気そうにしている様子を見て、大変嬉しく思いました。聞けば長男の学級役員も引き受け、活動に取り組んでいるとのことでお礼の言葉を述べておきました。

新任教員として3年目、6年生だった教え子が、私のことを覚えていてくれたことに感激しました。また、あの当時のことを懐かしく思い出しました。教育への情熱しかなく、未熟だったあの頃の私を成長させてくれたのは、実は当時の子どもたちだったのだと改めて反省もしました。不思議な御縁に感動しました。

令和4年5月23日

思い出に残る閉校記念プール掃除

南九州市立浮辺小学校
校長 石川 雅実

先週金曜日にプール掃除を行いました。天気予報では午後から雨、気温も上がらない、また、次週に修学旅行を控えているということもあり、子どもたちの体調管理を考慮して、急遽、午前中に変更しました。全児童11名と全職員で協力し合って掃除を行い、見違えるほどきれいになりました。

本来ならば午後から都合のつく保護者の方々と一緒に行く予定でした。午後からは案の定、雨の中での掃除となりました。保護者の方々には高圧洗浄機4台を用いて、仕上げ磨きを行っていただきました。保護者の方々から「何十年かぶりにプール掃除をしました。」「やり出せばきりがなく、面白くなってきました。」「校長先生、大人の水遊びですね。」「最初で最後のプール掃除、思い出に残る閉校記念プール掃除になりました。」と、会話も弾み、予定していた終了時刻を過ぎても作業が続きました。参加された方々の笑顔に象徴されるように、思い出に残る閉校記念プール掃除となりました。御協力、誠にありがとうございました。